

# 「心のもち方一つで未来は変わる」

最初に、生徒会長と副会長のお二人はその場にお立ちください。

12月26日にカナモトホールで、札幌市人間尊重の教育フォーラムがありました。そこで二人は、約400人の先生方に向けて、さっぽろっ子サミットを通じて感じたことや今後の学校生活に期待することなどについて、ステージ上から堂々と発表しました。質疑応答も含め、参加した先生方みんなの心を揺さぶる素晴らしい内容でした。この時の様子を録画していますので、何らかのかたちで、皆さんにも共有したいと思います。…3年生からのバトンの後輩がしっかりと引き継ぎ、そして磨いています。この縦の継続こそ、本校における自治的な活動の強みです。美香保中のみんなを代表して頑張った二人に大きな拍手をお願いします。

皆さん、**おかえりなさい**。今日からこの1年間の仕上げとなる3学期が始まります。3年生にとっては、中学校生活3年間の仕上げであり、義務教育9年間の仕上げとも言えるでしょう。その仕上げに向けて、二つのエピソードをお話します。

一つ目は、十数年前になりますが、自分を表に出すことが苦手で、いつもふくれっ面をしている生徒がいました。みんなが楽しく何かをやっている時でもブス〜ツとしていることが多く、担任としてとても気になる生徒でした。三者面談の時のことです。学校生活の様子について話をしていると、その生徒が、「学校、楽しくないから…」とボソツと言いました。すると隣にいたお母さんが我が子に向けて、真剣にこう言ったのです。「楽しいから笑うんじゃない。笑うから楽しくなるんだ!」と。

“楽しさ”とは、与えられるものではなく、自ら求めていくものなのかもしれません。

二つ目は、担任として学級づくりが上手くいかなくて悩んでいた時に、ふと読んだ本に書いてあったことです。その内容は、私を勇気付け、「粘り強く挑む力」を引き出してくれました。

進行性の難病にかかった中学教師が、以前の自分に比較して、自分をみじめに思い、後ろ向きになっていた時、同僚の先生に、こう言われます。「あなたは現在の状況をマイナスの目ばかりで見ているのではないですか。まだ歩けるし、大きな字なら書ける。あなたにしかできない教育があるのと違いますか?」と。そこで、自分の体について子どもたちに語り、できないことはできないと素直に話し、子どもたちにできると思うことは積極的に頼むようにしたところ、不思議なことに、子どもたちも、親たちも、同僚の先生たちも周囲がみんな変わってきたというのです。いや、周囲が変わったのではなく、自分が変わった結果、周囲の人々に変化が起こったのだと、この中学教師は思ったとのことです。

辛いことを探せば、辛いことばかり  
いやなことを探せば、いやなことばかり  
嬉しいことを探せば、嬉しいことばかり  
ありがたいことを探せば、ありがたいことばかり

この二つのエピソードに共通していることは何だと思えますか?それは、『**心のもち方一つで未来は変わる。**』ということ。人は変えられるのは自分だけです。今ある自分に気づき、前向きに自ら強い意志をもって行動を変えていくことで周りの状況も未来も変えていくことができます。皆さん、この仕上げの3学期は、**強い意志**をもってください。

そして、もう一つ。**‘プライド’をもってください**。‘プライド’を日本語に直すと、‘誇り’です。‘プライド’をもつとは、他者に対して‘プライド’をもつことではなく、自分自身、自分たち自身に対して‘プライド’をもつということです。他者に対して‘プライド’をもつということは、他者を基準において自分を考えているということです。そんなものは本当のプライドではありません。自分が、自分たちが本当に頑張っている、頑張ったという《手応え》をもつことが本当の‘プライド’です。

皆さんが、強い意志、本当の‘プライド’をもって、卒業・進級することを心から願っています。

(070115 3学期始業式 校長挨拶より)